

第7回「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会 委員発言要旨

H26.2.28

【安心】

(子育て環境の充実)

- ・3人目を産みたいと思えるよう奨励金など環境づくりが必要である。田舎だと住宅事情には困らないので、地方（田舎）から人口を増やしていく施策が良いのではないか。

(医療の充実)

- ・高齢者医療費について自治体の負担増が止まらない。これを減らす取組を真剣に考えてもらいたい。医療機関にかからないような仕組みが必要である。

(介護の充実)

- ・ヘルパーの業務の縛りを見直す必要があるのではないかと。1人のヘルパーが夫婦2人分の食事や洗濯などができるよう今のような個別給付ではなく、世帯ごとの支援になれば、給付費も減るし、利用者のためにもなるのではないかと。

(女性の活躍)

- ・女性の就業推進のため、訪問看護や訪問育児を進めてもらいたい。働きながら安心して介護・育児ができるようなものをもっと深めていってもらいたい。

【活力】

(農林水産業の担い手づくり)

- ・1次産業の就業者が激減しており、後継者が必要である。遠くの人でも経営を引き継いでもらえるようなシステムが必要ではないかと。

(景気対策)

- ・地域通貨が一時期、流行ったが、使える範囲（地域）が狭く、あまり広がらなかった。フランスでは地域通貨の使える範囲（地域）が広く、かなり利用されていると聞いた。検討してみてはどうか。

(雇用対策)

- ・非正規労働者が2,043万人、率で38.2%まで増えており、年収が200万以下の人が多い。収入が増えないと結婚できない状況にあり、これでは人口減少は止まらない。非正規労働者を正規労働者へ切り替えていく雇用対策が必要である。
- ・人口減少社会の対策としてやはり雇用の創出が必要である。一村一品運動のように各市町村の特色を活かし、流通規模を大きくして、大分県から県外・海外へ移出・輸出を進めてもらいたい。

- ・70歳くらいまで働きたいという人には働く場を用意してもらいたい。60歳以上の方はお金よりも生きがいや才能発揮のために働く人が多く、毎日の生活を充実させたいという意見が多いので、働くことは健康にも繋がり一石何鳥にもなるのではないか。

(ツーリズムの展開)

- ・食観光を推し進め、「冥土の土産御膳」と銘打ったメニューを作ったところ大変人気が出ている。一食が一万円もするが、福岡からも多くの方が食べにきている。発想の転換が大事である。

(若者定住対策)

- ・地域（特に周辺部）に若者が一人前に稼いで働ける場所がない。これではいくら若者に地域に入ってくれと言っても無理ではないかと思う。新しい産業政策にしても農業・観光政策でも若者の流出を食い止めるという視点を持っておいた方が良い。

(地域づくり)

- ・地域づくりには、住民が自分たちで先進地を見に行ったり、ネットワークづくりをする必要がある。自主的に地域を再生していけるよう「核となる人材」をどれだけ育成できるかが大事であり、それを行政がサポートできれば良い。
- ・大分には秘湯と呼ばれる素晴らしい温泉が各集落地にある。温泉と散策（山登りなど）と伝統的な食べ物があれば、地域の活性化ができると感じた。
- ・国東半島芸術祭のイベントが開催されている。国東半島の地域資源と現代アートを融合させ、特色ある地域づくりを推進している。作家たちが後生に繋がって生活していけるように、県立美術館などとも連携を図ってもらいたい。

(海外戦略の推進)

- ・人口が減って行く中で、APUの卒業生も日本に残ってくれれば、母国との貿易のパイプになってくれるのではないか。大分にハブができると良い。

【発 展】

(教育環境の充実)

- ・これからは多様な価値観を認め合うことが大事である。そのための学校教育は非常に重要であり、人口減少を何とか食い止め、生きがいを持って地域で頑張る若者を育てていくことが大切である。
- ・教育の現場で子どもたちが野菜や林業など生産現場に接する機会を増やしてもらいたい。
- ・介護士、保育士、医師、看護師が不足している。大学・専門学校・高校の講義やシステムの中で、どうすれば若者がこういった職種で希望を持ちながら、地域密着型でいきいきと生きていけるのかを考えなければならない。

- ・今、「子ども版日田市の歴史と文化財」を作成している。若者、子どもたちが生まれ育ったところに誇りを持てるような仕掛けづくりが必要である。

(芸術・文化・スポーツの振興)

- ・心豊かに暮らせるという点では、音楽・美術・スポーツといったものが大事である。県立美術館が開館するので、芸術や文化などをやっている若い大分県の人たちに光が当たると良い。
- ・大分駅から美術館までの道を「芸術・文化ロード」として、商店街の道路脇やシャッターに作品展示などをすると良いのではないかな。
- ・障がい者のアートについては、今は障がい者の方が表現する時代になっている。そういった表現を見ることでも新たな価値観が生まれてくると思う。

(NPOとの協働)

- ・NPOとの協働事業マニュアルが大変わかりやすい。NPOと行政・企業がタイアップする中で直接経費だけではなく、間接経費あたりも事業費の中で捻出ができるように検討してもらいたい。

(東九州自動車道開通後の振興策)

- ・大分県と宮崎県は古墳や神楽など共通の文化の繋がりがある。伝統文化と経済基盤づくりなどを県を越えて一緒にやってもらいたい。
- ・東九州自動車道関連の振興策について、予算執行などを誰が中心となって進めていくのかをはっきり決めてもらえると地元も動きやすい。
- ・県外からもお客を呼び込まなければならない。各地域で特色あるものをつくっていくこと、県外からお客を呼び込める美術館をつくっていくことが大切である。大分は素晴らしい温泉がたくさんあるので、もう一度行きたいと思える旅館なども作ってもらいたい。

(人口減少対策)

- ・人口減少について、現実的には大分県や身近に住んでいる地域がどうなるのかは知られていない。現実を見てもらうことが重要であり、県民がもっと自分たちのこととして向き合う機会を増やす必要がある。